

3. 11・14時46分 —東北地方太平洋沖地震—

2011年3月11日(金) 14時46分三陸沖を震源とする観測史上最大のマグニチュード8.8 (後に9.0に修正)の大地震が発生した。

この大地震発生直後に東北から関東の太平洋沿岸に大津波警報が発せられた。瞬く間に襲来した大津波ががれきとともに車や漁船を飲み込んで市街地に物凄い勢いで流れ込み、家を押しつぶしながら瞬く間に街が破壊されていく様子がテレビ中継された。真っ黒に化した大津波から逃れようとして必死になって逃げ惑う車が映像から流れていた。余震は分刻みで発生し、その度に速報が流れた。

宮城県栗原市では震度7を記録した。富山市は震度3であったが、今までに経験したことのないような長い時間の揺れを感じた。テレビ画面からは、震度の割には、揺れで倒壊した家屋はそれほど多く見受けられなかった。大津波が家屋をなぎ倒し、多くの人が逃げ遅れて未曾有の大惨事となった。犠牲者のほとんどは大津波によって亡くなられたに違いない。首都圏ではあらゆる交通機関が全てストップしたため、多くの人が帰宅できずに一夜を過ごした。

東京電力福島第一原発では事故が発生し、政府による初の「原子力緊急事態宣言」が発令された。その後の放射性物質の検出により避難区域が設定された。

国土地理院では、この地震時における地殻変動について、最大変動のあった牡鹿半島で東南東方向に約5.3mの移動、約1.2mの沈下があったと発表した。

3月28日現在に死者・行方不明は2万7000人を超えている。

(日本測量協会北陸支部)

